

元祖

附中祭、おつかい時

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

『葉の神はな...!』の中②
読書だより 咲きまいたが、よかたてきよ

石川書店

第53話 R02.11.04(水)

「ちっぽけな存在にも、
ちゃんと光はある。」

★今回、紹介する本は、『とわの庭』（著/小川糸、出版/新潮社）です。

前作『ライオンのおやつ』が本屋大賞2位をとった小川糸さんの最新作。とてもつらい現実を描きながら、そこにある希望を丁寧にすくいとるような不思議な味わいをもつ小説です。

ストーリーを言うと、この本のおもしろさが半減するので、ここには書きません。

書目

ただ、「とわ」という一人の女性の物語であり、「とわ」が自分の周りに広がる世界を受け止め、自分自身を知っていくような話になっています。

かなり壮絶な状況が描かれますが、著者特有のやわらかい語り口とまなざしで全てを包み込むような温かい1冊。幸せとは何か。どうしたら幸せになれるのか。考えさせられる1冊です。



この本は、とても温かい。そして、とても美しい。そして、とても大切な。そして、とても大切な。そして、とても大切な。

この体が生きている限り、
夜空には、わたしだけの
星座が、生まれ続ける

(p.247)

★
五感に
うたがえる
小説と
いいますか
全身で世界
をうけて
たくなる
感じ
です。

いきる。

★
前半はわり
びくりですが、
全てをうけて
こゝろ
温かい
視点に
いける
れます。

